



呉トピックス



色鮮やか スイートピー出荷順調

県内最大のスイートピーの産地、江田島市沖・是長地区では1月中旬、出荷が順調に進んでいます。沖スイートピー部会5戸が約17aで栽培し、4月下旬まで16万本の出荷を見込みます。

スイートピーは春らしいパステルの色味や定番人気のピンク色の他、近年ではマールやチョコレイト色など多様な種類が楽しめます。日々の管理の中でも、おろし作業は最大5・6mになるスイートピーを作業しやすい高さまで下ろし、畝に立てた支柱に留め直す重



▲見極めながらスイートピーを収穫する中井さん

要な作業。また、花茎がまっすぐに育つよう日の当たり方によって留める高さにも気を配ります。同部会の中井和人さんは「猛暑が心配だったが、順調に育ち安心している。パステル色や香りが華やかなスイートピーで送る人も受け取った人にも喜んでもらいたい」と笑顔で話しました。



春を告げる トルコギキョウ出荷

江田島市能美町の田中農園では、トルコギキョウの収穫・出荷が続ぎ、同市沖美町のハウス10aを鮮やかに彩っています。今シーズンは1月初旬から出荷が始まったトルコギキョウ。例年、12月ごろから始まる出荷は、昨年夏の猛暑と秋の高温で苗の成長に影響。「暑さ対策は難しい」と話す田中智さんはハウス内の換気や遮光、かん水で土中の温度を下げるなど対策し乗り越え、花や蕾の付き方、色味にも気を使い大切に育てます。

花束やアレンジなどシーンを選ばず人気の高いトルコギキョウはふんわりとした花びらと上品な色



▲花の状態を見てまわる田中さん

合い、ピンクや紫、緑など様々な特徴があります。毎日のように花の状態を注意深く観察する田中さんは「高温の影響で草丈の成長に鈍りはあるが、花つきや色合いは上々。春色を楽しんでほしい」と話しました。



新施設「えたじまーれ」オープン 江田島市力キ祭りも同時開催

2月初旬、江田島市大柿町に一般社団法人江田島市観光協会の運営する地域特産品販売所の「観光情報発信拠点施設「えたじまーれ」が新たな観光拠点としてオープンしました。オープニングセレモニーに江田島市6次産業化・地産地消協議会の平田圭司会長や江田島市の土手三生市長、JAの田中義彦代表理事組合長らが参加しました。

施設には同市観光協会事務所が入り、観光スポットやイベント情報などを案内。また、市内の生産者が持ち寄った季節の野菜、果物、花や市商工会などが認定した「えたじまブランド」を中心に特産品や土産物なども並びます。今後は飲食スペースも設ける予定です。



▲もみじまんじゅう作り体験ブースも出店

また、JA江田島アグリセンター北側では「第42回中晩柑類展示品評会」、「江田島市力キ祭り」、江田島のグルメを決める「島うまFES2025」が同時に開催され、JA呉地域営農経済センターはキッチンカーを出店し、揚げもみじやライスバーガー、ジュース「いしじ100」を販売しました。



2年生苗引き渡し 早期所得確保期待



▲レモンの大苗を運ぶ作業員ら

JA呉地域営農経済センターとJA広島果実連は1月下旬、呉市蒲刈町大浦地区の管理園でレモンといしじ温州

州の大苗を管内の生産者に引き渡ししました。この日はJAや広島果実連の職員ら6人が手分けして作業にあたりました。大苗は1年生の苗木を1年間、徹底管理し大きな2年生に仕上げたもの。新植や改植に大苗を使うことで、未収益期間を短縮し早期成園化が期待でき、生産者は早期の所得確保がメリットです。JA広島果実連が育苗する園地では今年度、レモン約6,000本といしじ温州を約1,000本の大苗を管理。県内JAからの注文を一手に引き受けています。

なるほどえ〜のう! 営農情報

落葉果樹

共通事項

▽根の活動開始

3月に入り温暖な気温になると地上部の芽は急速に膨らみ、芽の内部では発育が進みます。

地下部では根の活動が盛んになり、養水分の吸収を開始します。

落葉果樹の発根開始は、地上部が生長する前から始まります。根は、新梢の芽で関連する休眠はなく、根の栄養が充実して地温と水分の条件が揃えばいつでも発根は起こります。(休眠期でも地温が安定している地下の深いところでは白い根の状態です。)

秋に増えた根が多い樹ほど、早く根の活動が始まり、養水分が地上部に送

られ、早期に展葉(発芽した芽から葉が広がり光合成を開始すること)し、その年の良品多収につながります。

▽土壌の乾燥防止

根が動き始める時期に、土壌が乾燥すると、肥料の吸収や根の伸長が悪くなります。

無降雨の日が10日以上続いて、土が乾いている場合は、かん水を行ないましょう。

ただし、土壌条件や気象条件によって乾燥度合いは変化しますので、実際に土の湿り具合を確認して実施しましょう。

■イチジク

▽かん水

イチジクは土壌乾燥に弱く、水分要求量の高い果樹です。春先に土壌が乾燥すると発芽の遅れや生育の不揃いにつながってしまいます。

降雨が少なく土壌が乾燥するようであれば、7日間隔でかん水を行ないましょう。また、草を放置しておくとし、地温の上昇が妨げられ、発芽に影響を及ぼします。発芽前に除草を行ないましょう。

▽挿し木

挿し木をする圃地は、排水が良く肥沃な場所を選びます。

ただし、株枯れ病やネコブセンチュウなど病害発生園での挿し木や、株枯れ病などに感染した樹から挿し木用の穂木を採ることは避けましょう。

穂木の長さは15〜20cm程度で切り、芽を3節付けた状態で一穂とします。上部の一芽を残し土中に挿す部分は削り取ります。30cm間隔で芽が地際から上向きに少し出るよう、斜めに挿し込みます。挿し木後はかん水を行ない、黒ポリマルチなど乾燥防止に努めましょう。

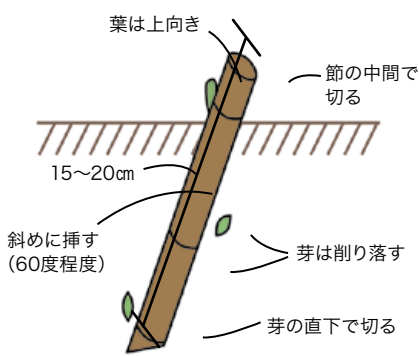


図 イチジクの挿し木

■カキ

先月に引き続き、粗皮削りを実施します。

主幹部や太い枝の分岐部を中心に、粗皮削りが有効となります。芽が動き出してからでは、樹体が衰弱するなどの悪影響を及ぼす可能性があるため、休眠期間中に作業を終えるようにしましょう。

■モモ

花粉のある品種は、摘蕾を行ないません。蕾が膨らみ始め先端にピンク色の花弁が見え始めたころ(開花4〜7日

前)に行なうと、蕾が落ちやすく効果的です。しかし植栽本数が多い場合、すべての摘蕾をこの時期に行なうことは不可能なので、そのような場合は2月末から開始し、開花までに終了させるようにしましょう。

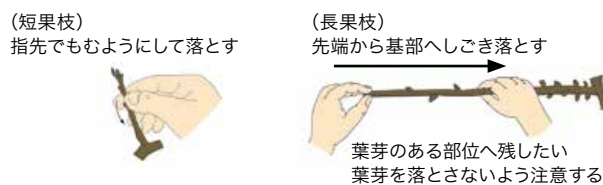


図1 モモの摘蕾方法



図2 モモの摘蕾の程度

MEMO

3月になると、モモやスモモなどが開花期に入ります。作業が遅れないよう、計画を立てて実施しましょう。

家庭菜園

新しい季節が始まるとともに、家庭菜園も活発な気配を見せ始めます。季節の変わり目の3月は、栽培の準備から新たな種の植え付けまで、さまざまな作業が待っています。

家庭菜園における土づくりは、野菜を育てるうえで重要な工程です。ここでは、土づくりの基礎的な知識を解説します。

1. 耕耘作業

●目的
土をふかふかにし、空気や水分が通りやすくすること。

●方法

スコップやクワを使い、20〜30cmほどの深さまでしっかりと耕します。大きな石や雑草の根を取り除きましょう。

●ポイント

あまり細かく砕きすぎず、適度な団粒構造を保つことが大切です。これにより、水はけと水持ちのバランスが良くなります。

2. 堆肥や有機物の投入

●堆肥

完熟堆肥を土に混ぜることで、土壌の栄養バランスが整い、微生物の働きが活発になります。また、堆肥が分解され土壌が団粒構造になることで通気性

や排水性、保水性に優れた植物に適した土壌になります。

●有機物

落ち葉、米ぬか、腐葉土なども良い有機物の補充になります。土になじむまで期間をおいて植え付けましょう。

●ポイント

堆肥を土に混ぜ込む際、全体が均一になるようにまんべんなく混ぜましょう。

石灰肥料の種類と特徴

西東社「おいしい野菜がたくさんできる土・肥料の作り方・使い方」

種類	特徴	アルカリ分	使用目安	効果
消石灰	強アルカリ性の水酸化カルシウム。速効性だが反応が強く障害が出やすい。	約60%	1㎡に 150g	速効性
炭酸石灰	アルカリ性の炭酸カルシウム。石灰岩を粉末にしたもの。流失しやすいカルシウム、マグネシウムを補給できる。	約50%	1㎡に 200g	緩効性
苦土石灰	アルカリ性の炭酸カルシウム。ドロマイトを含む石灰石を焼いた粉末にしたもの。流失しやすいカルシウム、マグネシウムを補給できる。	約50%	1㎡に 200g	緩効性

3. 石灰によるpH調整

日本の土壌は降雨量が多いことから酸性になりやすく、酸性土壌では作物の生育に悪影響を与えます。酸性が強い土壌には石灰(苦土石灰や消石灰など)を投入してpHを中和しましょう。

●投入量の目安

1㎡あたり約100〜200g(酸性度や石灰の種類に応じて調整)

●タイミング

石灰は土とよく混ぜ、施した後に2週間ほど寝かせることで効果が安定します。アルカリ成分の強い石灰を入れた直後に肥料を入れるとアンモニアガスが発生し土壌の窒素分が逃げる場合もあるため、注意が必要です。

4. 化学肥料や元肥の調整

不足している養分に応じて、有機質肥料や無機質肥料を与えます。なかでも次の3つは土の中に少ないことから必ず補給しなければならぬ重要な養分で肥料の三要素とも呼ばれています。

●窒素(N)

葉や茎の成長を助けます。過剰に与えると野菜が軟弱に成長してしまうので注意が必要です。

●リン(P)

根や花、実の発育に効果的です。不足すると開花や結実に悪影響を与えます。

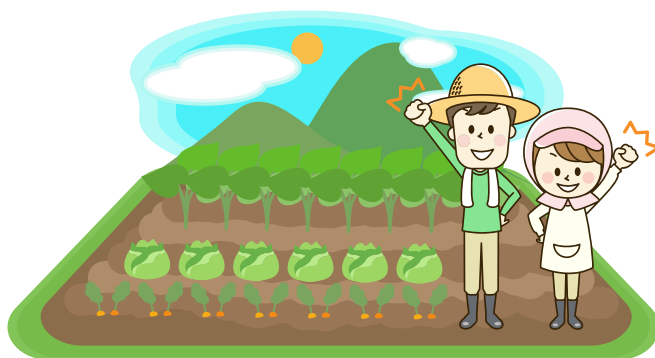
●カリウム(K)

病害虫への抵抗力を高めます。また根の生育にも良い影響を与えます。

5. マルチングで保護

土づくりが終わったら、地面をマルチ(ビニールシートやワラなど)で覆うと、以下の効果が期待できます。

- ・水分蒸発を抑え、過度の乾燥を防ぐ。
- ・光を遮断することで雑草の発生を防ぐ。
- ・地温を安定させる。
- ・降雨などによる土の跳ね返りを防ぐことで病気の発生を抑える。





第42回 中晩柑類展示品評会



▲表彰式の様子

2月2日にJAひろしま江田島アグリセンター北側の江田島市カキ祭会場で第42回 中晩柑類展示品評会が開催されました。

江田島市全域から、ワシントンネーブルやしらぬひ、はるみ、八朔など95点が出品され、糖度や酸度・外観の審査の結果、12名の方が受賞されました。結果は以下のとおりです。(敬称略)

賞名	地区名	氏名	品種	賞名	地区名	氏名	品種
江田島市長賞	江田島町宮ノ原	中下 清和	ワシントンネーブル	2等賞	能美町中町	向井 英雄	しらぬひ
江田島市議会議長賞	大柿町大原	森兼 猛夫	しらぬひ	2等賞	能美町鹿川	出浜 明	紅八朔
ひろしま農業協同組合長賞	江田島町中央	小跡 孝廣	リスボン (レモン)	2等賞	沖美町是長	長原 成人	はるみ
江田島市農業委員会長賞	江田島町鷺部	吉野 将弘	紅八朔	3等賞	江田島町宮ノ原	新沖 彩香	はるみ
江田島柑橘研究会長賞 (1等賞)	江田島町宮ノ原	中下 令子	普通甘夏	3等賞	江田島町宮ノ原	中下 仁	太田ポンカン
審査員特別賞 (1等賞)	江田島町宮ノ原	中下 仁	村上ネーブル	3等賞	江田島町宮ノ原	中下 清和	山見阪ネーブル

ときめき ♡ 女性部通信

『家の光』持ち寄り読書会

JA女性部呉地区本部音戸支部は田原地区、波多見地区2つのグループでそれぞれに活動しています。

毎月、JAグループの家庭雑誌である『家の光』持ち寄り読書会を開き、掲載されている記事を活用し、音読や体操、手芸、料理教室などを行ない、くらしに役立つ情報の共有やグループの結束力アップに役立っています。

JA呉地域管内では、音戸支部を含め6つの読書会グループがあり『家の光』の記事を活用して交流を深めています。



▲みんなで音読 (波多見グループ)



▲「らくヨガ」疲労感リセット ☆シャキーン!のポーズ (田原グループ)



2025年5月号で『家の光』は創刊100周年
さまざまな特別企画をお届けしていきます

総力大特集 「わたしと家族と台所」

5月号 別冊付録 『台所の知恵』

100年分の『家の光』掲載記事から、よりすぐりの『台所の知恵』をまとめた永久保存版!

お申し込みはお近くのJAへ

定価 (税込) ● 普通月号 629円 ● 特別月号 (1・4・5・7・9月号) 922円 ● 12月特別号 1,027円

JAグループ 家の光協会
〒162-8448 東京都新宿区市谷柏町11 TEL. 03-3266-9039 <http://www.ianohikari.net/>

『家の光』
愛読者拡大
キャンペーン

誌名	年間定価 (税込)	割引額	年間購読価格 (税込)
家の光	9,411円	629円	8,782円
地上	7,540円	618円	6,922円
ちやぐりん	6,156円	492円	5,664円

誌代1年分を前納すると、1カ月分お得に!!

購読のお申込みは最寄りの各支店窓口まで

女性部通信2月号について、右記のとおり訂正してお詫びいたします。

千支の押絵作り写真説明 誤) 波多見支部 → 正) 音戸支部 波多見グループ